

研究成果の新聞掲載報告

1. 研究代表者：坂部 裕美子（サカベ ユミコ）
2. 所属研究機関等：財団法人 統計情報研究開発センター・研究開発本部・研究員
3. 掲載新聞名： 朝日新聞（朝刊）・夕刊 平成 21 年 9 月 10 日（木）掲載
4. 掲載された記事部分：

2009年(平成21年)

小さん系よろしいようで

最大46人、中堅も伸び

5代目柳家小さん



統計研究員が勢力分析

上野、新宿、池袋、浅草の4演芸場で、80～05年の5年おきのプログラムに登場する落語家の人数などを調べた。師匠をたどり 5 代目柳家小さんの「小さん系」、5 代目古今亭志ん生の「志ん生系」など10グループに分類。05年時点では①小さん系(46人)②志ん生系(38人)③(林家)彦六(先代の林家正蔵)系(18人)の順に多かった。

これからの勢力を予測するため、弟子を育てる役割を担う中堅世代（51～70年生まれ）の伸び率をみると、85年と05年を比べ、柳家喬太郎さんら小さん系は5.8倍（4人→23人）、古今亭志ん輔さんら志ん生系2.9倍（7人→20人）、春風亭小朝さんら彦六系2.6倍（5人→13人）と、やはり小さん系が最大だった。

坂部さんは「小さん一門はしばらく最大勢力を維持するだろう。ただ、数の多さと落語のおもしろさは別」と話している。（石橋達平）

最大派閥が今後も勢力拡大か――。政治の話ではなく、落語の世界のそんな研究結果が9日、同志社大で開かれた統計関連学会連合大会で発表された。「小さん」一門の優勢が続く見通しで、落語界の「政権交代」はまだ先のようだ。ただし、調査の対象は東京を拠点とする落語協会（約230人）。大阪などの上方落語協会（約200人）とは別の話のようで……。

発表したのは総務省の外郭団体「財団法人統計情報研究開発センター」の坂部裕美子研究員。東京の